和教時報

2024年２月15日（木）発行　第2006号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

和教組ゆるキャラ みばん

140万円を超える「被災者支援カンパ」

全教を通じて被災地の教育委員会へ届けます

能登半島地震

能登半島地震から間もなく二ヶ月が経過しますが、今回の地震で二四〇人以上の方がお亡くなりになり、被災家屋は五万軒にのぼるなど、甚大な被害をもたらしました。被災地では懸命な復旧作業が行われていますが、水道や道路などのインフラ回復の見通しは立たず、一月一三日現在で、約一万三千人の方が避難生活を余儀なくされています。

和教組がみなさんにご協力をお願いした「被災者支援カンパ」は現時点で、約一四〇万円が寄せられています。和教組の上部団体である全日本教職員組合（全教）を通じて、能登地方の自治体や教育委員会に届けます。まだカンパ袋が職場にある学校では、ぜひ、ご協力をよろしくお願いします。

ボランティアに関する問い合わせも頂いていますが、現地の受け入れ態勢がまだ不十分なため、現時点では全教や和教組としてボランティア募集の計画はできていません。今後、現地の状況を踏まえ、計画し、みなさんにお知らせします。

和歌山県では近い将来、東南海・南海地震の発生が予測されています。自治体の最大の責務は住民の生命、財産、生活を守ることですが、県内では「平成の大合併」により、多くの自治体で「広域化」「職員数減」「非正規化」などが進行し、学校も含め職員・教職員の「多忙化」も大きな課題になっています。

今回の能登半島地震の被害状況を見ると、同じ「半島部」で生活する私たちにとって、決して他人事ではありません。和教組として、県内の他の労働組合や民主団体などと共同して、市町村や県、国に対して、今回の能登半島地震で明らかになった課題をしっかりと分析し、防災関係や教育・福祉関係の予算の拡充を求めていきます。

県教育のつどい全体会司会 ごくろうさまでした

ピンのスポット 416

能登半島地震で被災されたみなさまにお見舞い申し上げます。

和教組は、三学期の開始と同時に支援カンパをよびかけました。これまでも様々な災害に際してカンパをお願いし、多くのご協力を頂いてきましたが、今回はこれまで以上にたくさん本部に届けて頂いています。先月末、まず九六万円を全教に送金しました。学校や子どものために活用されるよう、教育委員会等に届けられます。

教職員組合は、労働条件について交渉したり、教育研究に取り組んだりする団体ですが、県内の教職員を横につなぐ組織という特徴があり、教職員組合以外にこのように募金をよびかけられる団体はありません。

当たり前のように行っている活動にも組合の値打ちを実感します。（K）

わきょうそ連続講座
実践を語り合うひととき

和教組　教文部長　山崎　浩廉

二〇二三年度は教育実践を語ることや、書きことばにおこすことの魅力を実感してもらおうと「わきょうそ連続講座」と銘打って、五回の講座を実施してきました。和歌山県国民教育研究所が発行している季刊「わかやまの子どもと教育」に掲載された実践をもとに話し合ったり、大学の先生に話してもらったり、オンラインを併用して行いました。参加者は毎回一〇名前後で話しやすい雰囲気でした。

第2回

第3回

第一回は七月二九日和歌山市教育会館で「作文を読み合い、新しい自分に出会う」神﨑和弘さん（和歌山市立有功東小）に子どもたちの思いを書きことばにしながら、思いを受け止めて、尊重していく実践を、第二回は九月一六日和歌山県教育会館で「声を聴き、自分を語る」龍神美紅さん（和歌山市立加太小）にも子どもたちのふとした書きことばから掴む内面に触れながら、子どもたちの思いが出せる人間関係や集団づくりを話し合いました。

第三回は一二月二三日和歌山県教育会館で太成学院大学の小畑耕作先生を招いて「実践記録　書きませんか?」と題して、実践記録を書く意味とその魅力について学び合いました。どの講座も終了後にはお食事会もセッティングされていて、参加者が学習会では聞けなかったことや議論の続きをして盛り上がりました。

第4回

第四回は場所を海草支部に移して一月二〇日に「ICTの活用について～実践とふりかえり～」目﨑涼斗さん（海南市立巽小）に子どもたちの発達や実態に合わせたタブレットを使用した実践例を話してもらいました。子どもたちが自主的に取り組む姿や子ども同士の関係が繋がったり、また教員が使わなければならないと迫られたりする現実など参加者でICTの活用について現場で起こっていることを話し合うことができました。

第五回は那賀の教育会館で二月三日に平田秀一さん（和歌山市立西脇中）と小坂夏樹さん（紀の川市立那賀中）に「中学校での支援教育」について普段の実践を報告していただきました。生徒たちのやりたい気持ちを引き出しながら、自分の気持ちをコントロールしたり、ルールを自分たちで作ったり、集団を作っていく実践をもとに思春期に大切にすべきこと、またその後の進路についてなどに議論を深めることができました。

第四回も五回も海南や岩出のお店でお食事会を実施。ご当地グルメに報告者の高校時代の話花が咲いたり、部活動の地域移行について話したりと楽しい時間を過ごしました。

第5回

どの講座でも肩を張らずに、ぶっちゃけの話ができるから失敗したことも言えるという感想もありました。また参加した方からは「実践書いてみます」という声もありました。

みなさんもまた参加してくださいね。

女性部 新春のつどい

あなたも 食生活を見直してみませんか？

和教組　女性部書記長　岩田　美和

毎年恒例の女性部主催「新春のつどい」は「はたらく女性の和歌山県集会」とタイアップして行いました。メインの会場は県立図書館でしたが、那賀支部や西牟婁支部では会館へ集まって視聴でき、支部独自の取り組みになったり、他の女性団体の方との交流もできたりしたことが大変良かったです。

今回は「食と健康　農業と平和はつながっている」というテーマでお話いただきました。これはどれも生きることの根幹につながることであり、食料自給率の低い日本で生活する私たちには耳の痛い話ばかりでした。講師の山崎方里先生は八〇歳を超えていると思わせないほど、かくしゃくとされ、バイタリティー溢れる方でしたが、日ごろの食を疎かにせず、ちゃんと大きな便り（大便）がある生活を心がけているそうです。

忙しさのあまり、疎かにしがちな食生活ですが、脳への影響や、地球環境等の全てに関わってくると思うと、見直すことが多すぎると感じました。後半に行った交流でもJAにお勤めの方からの助言もあり、食教育ができることを考えさせられました。

日本政府は障害者権利条約を正しく理解せよ！

和教組　障害児学校部長　山口　法之

学級学校学習交流集会

第二三回全国障害児学級&学校学習交流集会が、一月六日、七日に名古屋市を中心に開催され、和歌山からはオンライン参加も含めて九名が参加しました。

記念講演では長年、愛知県でろう教育に携わってこられた、竹沢清氏が「子どもの悩み・ねがいに出会って、私たちは教師になっていく」と題して、ご自分の実践や運動の歴史から語られました。竹沢節とも言える独特の語り口調で、子どもの姿が目に浮かぶかのようなお話でした。

二日目は「特別支援教育に関わる近年の動向とわたしたちのとりくみ」と題した、奈良教育大の越野和之氏の講座に参加。コロナ禍の四年間の特別支援教育の現状や施策について、文科省が二二年に通知を出した「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について（通称四・二七通知）の解説と課題についてわかりやすく話していただきました。

その中で国連障害者権利委員会総括所見が意図する内容が日本政府は間違った和訳をしている。また、障害者権利条約の対日審査のなかで間違いを指摘されても改めようとはせず、逆に開き直って「大変遺憾」と文科省大臣が発言している。障害者権利委員会は日本の障害児教育を従前の「特殊教育」の性格を脱していない。と考えているということでした。

まちがいさがし当選者（9名）

おめでとうございます。
当選者の皆様には「学校生協ギフトカード」を贈呈いたします。

支部	分会	氏名
那賀	中央小分会	土橋　千尋 様
那賀	書記局	部家　司好 様
和市	名草小分会	堀内　裕子 様
和市	西脇中分会	志茂　雅哉 様
日高	松原小分会	財　小百合 様
日高	中津小分会	小川　和芽 様
西牟婁	大坊小分会	中川　敬之 様
東牟婁	太地小分会	岸　みどり 様

※あと１名は那賀支部の臨教組合員の方です。
ご応募ありがとうございました。

ぜひ あなたにも 読んでいただきたいこの一冊

18 「伝わるちから」

（松浦弥太郎）

東牟婁支部　宇久井小分会　田中　優子

大好きな芸人のイモトアヤコさんが紹介していたのを聞いて、手に取った本です。小難しい内容ではなく、作者が自身の日々の暮らしの中で起きる出来事や、大切にしたいことなどを短編で綴った、読んでいてほっとする本です。

「ありがとう」のその先〝誰かに何かをしてもらった時。頂き物をした時。食事をごちそうになった時。ひとことの「ありがとう」で済ませてしまうのは残念なことだ。大切なのは次の日のお礼である。改めて「昨日はありがとうございました。」と伝え、してもらったことや頂いたものの感想を具体的に伝えるように心がけたい。…暮らしにおいても仕事においても、豊かな人脈は必要である。人脈のある人はとにかくお礼上手である。お礼上手な人は必ず大事にされる〟

私が新米教師の頃、ベテランの先生方の相担にさせてもらうことが多く、何か行事や催しがあった次の日の朝に、「先生、昨日はありがとうね」と必ず言ってくれました。それまでの私の人生で、次の日にまたお礼を言ってもらう経験があまりなかったので、社会人はすごいなぁと思ったことを覚えています。だからといって、私も次の日にお礼を言える人間になったわけではありません。日々の仕事の中で、前の日のことを思い出してお礼を言う余裕が当時はなかったのだと思います。そして時が経ってこの本に出会い、私もお礼が言える人間になりたいと素直に思いました。付箋に「〇〇先生にお礼」と書いて職員室の自分の机に貼って帰ったこともありました。今では、付箋がなくてもお礼が言える心の余裕が出てきたように思います。

日々の生活の中には、色々なことが起こっていて、それに気づくことができる、誰かを、何かを、大切に思うことができるようになりたいと思わせてくれた一冊です。

2024年度
奨学生募集のお知らせ
無利息で奨学金を貸付します。

応募資格	国・公・私立大学・大学院・短期大学・高等専門学校（第４学年以上の在学生に限る）及び専修学校（学校教育法「第７章の２」に基づく）に在学しているか、入学手続きを完了したもの。（但し海外の大学は対象外です）
募集期間	2024年２月１日～４月30日
募集人員	20名
貸付金額	修学１年につき25万円で、新入学の場合、最高４年で100万円
利　息	無利息（但し、返済期限を過ぎた場合は延滞利息を徴収します）
申込方法	当支部のホームページ（「和歌山教弘」で検索して下さい）にある「申請書・その他ダウンロード」より募集要項等を取得後、和歌山支部へ送付して下さい。
選考・決定	当支部の教育振興事業選考委員会にて審査、選考をおこない、和歌山支部長の推薦をへて本部理事長が決定します。
奨学金送金予定	2024年６月初旬
奨学金の返済	奨学金は原則として卒業年の12月を第１回とし、100万円借用者の場合は10回以内、それ以外は８回以内の年賦返還（毎年12月）。

日本教育公務員弘済会和歌山支部
〒640-8269 和歌山市小松原通3-20
TEL. 073-421-7881
FAX. 073-488-7202

全教共済
おうちの共済
地震特約付 火災・自然災害共済
火災はもちろん
自然災害もワイドに補償
賃貸にお住まいの方は
借家人賠償責任特約もオススメ!
お見積りは、二次元コードよりお願いします

お問合せは　和歌山県教職員共済会・WKKまで
〒640-8269　和歌山県小松原通3-20　教育会館１F
TEL：073-436-7860（9:30～17:00）
FAX：073-436-8688（24時間受付）